

2025年度 町田市立町田第四小学校 学校経営計画・学校評価報告書

学校教育目標 つよい子ども ◎考える子ども やさしい子ども 「実行する力」「問題を解決する力」「人と関わる力」	学校経営の重点 ○学校運営協議会とともに、「つながり」を大切にした教育活動 ○授業で勝負ができて、「きめ細やかで粘り強い」教職員集団
○目指す学校像 …「子供の未来をひらく学校」子供たちが関わり、高め合いながら、未来を切り拓く基礎を学ぶ調和のとれた学校 ・子供一人一人が大切にされる学校 ・子供が自立していくための基礎を身に付ける学校 ・集団生活をよりよく営むための規律を大切に学校 ・保護者や地域の方から信頼され、愛される学校	重点目標の成果と課題 ◎開校70周年にむけて取組の数々を、学校運営協議会・教職員・児童とともに高い満足度を上げ、大きな成果となった。 △児童理解やきめ細やかで粘り強い指導」は形成されたが、学習指導についてはさらに磨ける余地もある。校内研究・研修を核にしている。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善案	学校関係者評価 記入欄	評価					
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した学びを推進する教育課程を実施する。	地域の人材活用と施設を生かした本校ならではの教育を推進する。	地域連携教員やボランティアコーディネーターなどと連携した授業を実施する。	4 全学年全学級の指導場面で、前期後期ともに実施 3 90%以上の学年・学級の指導場面で、前期後期ともに実施 2 80%以上の学年・学級の指導場面で、前期後期ともに実施 1 80%未満の学年・学級の指導場面で、前期後期ともに実施	3.7	A	A 学校評価アンケート「ア」③「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	85.6	A	①VC等による人材発掘などにより、年間を通じた教育活動をすすめた。取組指標が37.3(5.3)。成果指標が85.6(82.6%)と微増した。 ②意図的・計画的に学校運営協議会を年間8回(見込)開催し、意見交換をした。成果指標の90.7%から保護者にも周知できていることが分かる。 ③開校70周年行事に向け、地域の実行委員会が10回以上開催され、地域・保護者全体で効果的に計画し、情報伝達が多様化を図る。	■生産者や担い手取組は、学年担任からの新しい働きかけでよくなった。次年度も地域連携教員を核に、総合等の単元の精選をすすめるほか、保護者の周知に努める。 ■町田市のガイドラインに沿った積極的な情報発信の継続に努め、保護者の要望の大きい学年たよりのtetoru配信を行う。 ■今年度末に開催するオンライン併用の委員会や説明会を効果的に計画し、情報伝達が多様化を図る。	○VCを活用した教育活動などが多くなってきたと思う。生産者を招くなど先生主体の依頼でVCを活かしてほしい。 ○学校運営協議会や周年実行委員会などの意見を学校が取り入れてくれた。 ○70周年記念事業で地域の支援・協力が大きく反映され、地域力を感した。 ○tetoruなど活かし方が向上しているが、情報量が多くなりすぎないように今さらにするといけない。 △オンライン配信をうまく取り入れる必要がある。	A					
		学校の教育活動全般について、積極的な情報発信と受信・共有を行う。	教育活動だより、ホームページの更新、tetoru配信による情報発信を行う。 保護者会(オンライン含む)や学校公開、学校行事などで、教育活動を積極的に公開する。	4 必要情報の90%以上を周知・意見交換 3 必要情報の80%以上を周知・意見交換 2 必要情報の70%以上を周知・意見交換 1 必要情報の70%未満を周知・意見交換	4.0	A	A 学校評価アンケート「ア」④「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「地域との一体化」肯定的評価 55%未満	90.7	A	A 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 55%未満	96.3	A	A 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「情報発信」肯定的評価 55%未満	97.6	A	A 学校評価アンケート「ア」①「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	97.6	A
確かな学力の育成	子どもが主体的に学ぶ授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	学びの「根っこ」を学校全体で共通理解し、指導の方向性を同じくする。	「町四学習スタンダード」を共通理解し、学習規律・授業規律の徹底を図る。 発達段階に応じた家庭学習のステップを踏まえ、学習習慣の確立を図る。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.4	B	A 児童アンケートの関連項目の平均肯定的評価 80%以上 B 児童アンケートの関連項目の平均肯定的評価 70%以上 C 児童アンケートの関連項目の平均肯定的評価 55%以上 D 児童アンケートの関連項目の平均肯定的評価 55%未満	73.8	B	①児童は、学習準備73.3%(70.4%)、授業中の姿勢62.0%(69.9%)、話を聞く86.2%(90.1%)であり、さらに共通実践していく必要がある。 ②家庭学習は、児童が75.8%(77.0%)、保護者が69.1%(72.5%)で微減である。 ③読書は、児童6.31%(72.7%)、保護者47.5%(52.1%)であり、最も低い項目である。 ④⑤取組指標が3.6(3.2)と大きく伸びたが、授業の実績が73.7%(79.4%)、理解81.9%(83.2%)、児童の表出66.8%(69.5%)にとどまっていた。保護者の基礎基本の定着への評価は87.6%(86.4%)であった。	○以前より子供が授業に取り組み姿勢や机の準備がしっかりできている。 ■教科を絞った校内研究により、系統性・目的を向けることができた。町田学習クラブを共通実践していく必要がある。 ○町田学習クラブ「標準」を共通理解し、しっかりと指導している。それが家庭学習などにつながることを期待している。 ○道徳の授業ではよく考えていてよくなった。 ■素読や読み聞かせなどことばに優れた多様な活動を実践する。高学年のLibby(電子図書館)導入がすすんでいるので、端末更改に合わせてすすめる。 △読書離れが深刻である。授業時数を増やすことが難しければ、宿題にするなど対応策を考えたい。 △学校より家庭で、読書の機会が少ないことを考えたい。	B						
		学習への興味・関心を高め、子どもの「学び続ける力」と「共に考える力」を育てる。	学習者としての自覚をもたせるために、めあての提示や振り返りを行う。 授業のねらいに即した発問を考え、価値ある対話や学び合いをする学習場面を展開する。	4 貸出冊数が前年比100%以上 3 貸出冊数が前年比90%以上 2 貸出冊数が前年比80%以上 1 貸出冊数が前年比80%未満	2.7	C	A 児童・学校評価アンケート「イ」③「読書」の平均肯定的評価 80%以上 B 児童・学校評価アンケート「イ」③「読書」の平均肯定的評価 70%以上 C 児童・学校評価アンケート「イ」③「読書」の平均肯定的評価 55%以上 D 児童・学校評価アンケート「イ」③「読書」の平均肯定的評価 55%未満	55.3	C	①児童は、学習準備73.3%(70.4%)、授業中の姿勢62.0%(69.9%)、話を聞く86.2%(90.1%)であり、さらに共通実践していく必要がある。 ②家庭学習は、児童が75.8%(77.0%)、保護者が69.1%(72.5%)で微減である。 ③読書は、児童6.31%(72.7%)、保護者47.5%(52.1%)であり、最も低い項目である。 ④⑤取組指標が3.6(3.2)と大きく伸びたが、授業の実績が73.7%(79.4%)、理解81.9%(83.2%)、児童の表出66.8%(69.5%)にとどまっていた。保護者の基礎基本の定着への評価は87.6%(86.4%)であった。	○以前より子供が授業に取り組み姿勢や机の準備がしっかりできている。 ■教科を絞った校内研究により、系統性・目的を向けることができた。町田学習クラブを共通実践していく必要がある。 ○町田学習クラブ「標準」を共通理解し、しっかりと指導している。それが家庭学習などにつながることを期待している。 ○道徳の授業ではよく考えていてよくなった。 ■素読や読み聞かせなどことばに優れた多様な活動を実践する。高学年のLibby(電子図書館)導入がすすんでいるので、端末更改に合わせてすすめる。 △読書離れが深刻である。授業時数を増やすことが難しければ、宿題にするなど対応策を考えたい。 △学校より家庭で、読書の機会が少ないことを考えたい。	B						
豊かな心の涵養	自分の考えを伝え、他人の考えを理解するとともに、多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすることを意識・意欲・態度を育てる。	生命を大切に守る心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	毎月の心のアンケートの聞き取りを丁寧に実施し、いじめ見逃しゼロにする。 学校や家庭の決まりを守ろうとする規範意識を高める。	4 すべてのアンケートで実施 3 90%以上の実施 2 80%以上の実施 1 80%未満の実施	4.0	A	A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ・体罰防止」肯定的評価 55%未満	75.9	B	①いじめ等への対応に、75.9%(76.0%)の肯定的評価であった。 ②規範意識の肯定的評価は、85.4%(80.9%)と増加したが、児童評価は80.9%(85.4%)と減少している。 ③誰にでもやさしくは、児童の91.1%(90.3%)の高い肯定的評価を維持している。 ④学級満足は74.2%(74.1%)、友達満足94.1%(93.6%)、Q-Uでの満足度51.3%[全国平均43.0%]でありA評価に値するが、要支援が26.0%[全国平均23.0%]であるためBとした。	■担任が問題を抱え込まない組織的な対応や情報のネットワークが効果的であったり、継続する。 ■学校のきまりを再点検し、規範意識とその実践力を継続的に指導する。 ■居心地がよい学校・学年・学級になるように、今年度は周年行事関連で、子供のアライアインなども生かして作り上げる経験させながら、次年度も実践していく。	○心のアンケートをはじめ、何か問題があった際は先生方が協力し、対応されている姿をよく見かける。 ○周年行事で子供たちの成長を見ることができた。 ○いじめ対応などアンケートに比べて70%の肯定的評価はとも高い。さらに向上させたい。 △心のアンケートにどこまで素直に記入しているかが気になる。 △読書が理解教育について、障がい福祉課や社協の利用も検討できると思う。	A					
		他者を理解し、自分のできることを実践しよとする力を育む。	障害理解啓発授業(今年度はサポートルーム)を全学級で実施する。 学級活動はじめ子供の主体的な活動を推進する。	4 90%以上の学級で実施 3 80%以上の学級で実施 2 70%以上の学級で実施 1 70%未満の学級で実施	4.0	A	A 児童アンケートの関連項目の肯定的評価 80%以上 B 児童アンケートの関連項目の肯定的評価 70%以上 C 児童アンケートの関連項目の肯定的評価 55%以上 D 児童アンケートの関連項目の肯定的評価 55%未満	91.1	A	①いじめ等への対応に、75.9%(76.0%)の肯定的評価であった。 ②規範意識の肯定的評価は、85.4%(80.9%)と増加したが、児童評価は80.9%(85.4%)と減少している。 ③誰にでもやさしくは、児童の91.1%(90.3%)の高い肯定的評価を維持している。 ④学級満足は74.2%(74.1%)、友達満足94.1%(93.6%)、Q-Uでの満足度51.3%[全国平均43.0%]でありA評価に値するが、要支援が26.0%[全国平均23.0%]であるためBとした。	■担任が問題を抱え込まない組織的な対応や情報のネットワークが効果的であったり、継続する。 ■学校のきまりを再点検し、規範意識とその実践力を継続的に指導する。 ■居心地がよい学校・学年・学級になるように、今年度は周年行事関連で、子供のアライアインなども生かして作り上げる経験させながら、次年度も実践していく。	○心のアンケートをはじめ、何か問題があった際は先生方が協力し、対応されている姿をよく見かける。 ○周年行事で子供たちの成長を見ることができた。 ○いじめ対応などアンケートに比べて70%の肯定的評価はとも高い。さらに向上させたい。 △心のアンケートにどこまで素直に記入しているかが気になる。 △読書が理解教育について、障がい福祉課や社協の利用も検討できると思う。	A					
健やかな体の育成	生涯を通じて健やかに過ごすための運動習慣・正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましく生きる力を育てるとともに、自ら・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育朝会、体力向上期間を実施し、運動の日常化を推進する。 「休み時間は外遊び」を推奨し、基礎体力の向上を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.6	A	A 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 55%未満	80.2	A	①取組指標は若干低くであるが、保護者アンケートは80.2%(80.5%)と変化はなかった。 ②児童アンケートは72.1%(77.7%)と、天候の影響もあり減少したと考える。 ③保護者アンケート90.7%(86.8%)と大きく増加した。	■猛暑日などの体育館割り当てなどを経験し、運動をかける機会を増やす。 ■読売自転車、町田ゼルビア(77.7%)と、天候の影響もあり減少したと考える。 ③保護者アンケート90.7%(86.8%)と大きく増加した。	○猛暑日が多く、屋外の活動に制限があったが、体育館を活用するなど工夫があった。 ○先生方も休み時間以外に外遊をして、子供たちが喜んでいる。 ○プロの競技体験は、キャリア教育の点でもよい。 △体力テストの結果があまりよくないため、体育のほかに体を動かす機会を増やしたい。	A					
		安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成する。	柔軟で学びのある避難訓練を計画的に実施し、自分の身を守る判断力・行動力を身に付けさせる。	4 年間指導計画の90%以上で実施 3 年間指導計画の80%以上で実施 2 年間指導計画の70%以上で実施 1 年間指導計画の70%未満の実施	4.0	A	A 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識」肯定的評価 55%未満	90.7	A	①取組指標は若干低くであるが、保護者アンケートは80.2%(80.5%)と変化はなかった。 ②児童アンケートは72.1%(77.7%)と、天候の影響もあり減少したと考える。 ③保護者アンケート90.7%(86.8%)と大きく増加した。	■猛暑日などの体育館割り当てなどを経験し、運動をかける機会を増やす。 ■読売自転車、町田ゼルビア(77.7%)と、天候の影響もあり減少したと考える。 ③保護者アンケート90.7%(86.8%)と大きく増加した。	○猛暑日が多く、屋外の活動に制限があったが、体育館を活用するなど工夫があった。 ○先生方も休み時間以外に外遊をして、子供たちが喜んでいる。 ○プロの競技体験は、キャリア教育の点でもよい。 △体力テストの結果があまりよくないため、体育のほかに体を動かす機会を増やしたい。	A					